

チェックテスト

チェックテスト

本冊 P. 8

1章 論理的文章の読解

- 1 イ 2 エ
3 例 人間が世界を認識する基本的な枠組みを提供すること。
4 ア

解説

4 「要旨」が問われたときには、結論部分を選ぶ。

2章 文学的文章の読解

- 5 ウ 6 イ

解説

5 兄は、旅行に出発する直前になって心細くなり、「うん、うん」と生返事をしている。
6 先輩は、好きな文房具を描くときは集中し、描くことを楽しんで、我を忘れている。

3章 韻文の読解

- 7 オ 8 カ 9 ア 10 ウ
11 イ 12 最上川のいまだつつくしき
13 季語…すすき 季節…秋
14 季語…万緑 季節…夏
15 や 16 けり

解説

12 「上空にして」は「じょ・う・く・う・に・し・て」と七音になる。

4章 古典の読解

- 17 におい 18 おのこ 19 よろず
20 ウ 21 ア 22 イ 23 エ
24 こぞ・ア 25 か・イ
26 あやしき言かな 27 イ 28 ア
29 己_レ所_レ不_レ欲_ト、 30 ア

現代語訳

- 24 神へ参詣_{さんけい}することが本来の目的だ。
25 参詣した人がみな山へ登ったのは、何事があったのだろうか。
26 船人が答えているには、「不思議なことばだなあ」と笑って、
27 神の時代でも聞いたことがない。竜田川が鮮やかな紅色に水をくくり染めにしているとは。
28 別れて因幡国に去ったとしても、稲羽山の峰に生えているという松ではないが、あなたが待っていると聞いたら、すぐに帰って来よう。
29 自分がしてほしくないことは、他人にしてはならない。
30 春の眠りは心地よく、夜が明けるのも気づかないほどだ。あちこちから小鳥のさえずりが聞こえてくる。昨夜は雨風の音が激しかった。(庭の花はどれほど散ったことだろう。)

5章 漢字・語句／文学史

- 31 保証 32 映
33 にゅうわ 34 いちじる
35 しんによう「しんにゅう」・九(画)
36 ころもへん・十四(画)
37 イ 38 オ 39 エ 40 カ
41 ア 42 ウ
43 ウ 44 エ 45 イ 46 ア
47 エ 48 ア 49 イ 50 ウ
51 エ 52 イ 53 ウ 54 ア
55 ア 56 エ 57 イ 58 ウ
59 ウ 60 エ 61 ア 62 イ
63 ウ 64 エ

解説

- 31 同音異義語「保証・保障・補償」に注意する。
32 同訓異字「映す・写す・移す」に注意する。
33 『徒然草』のジャンル(文学形態)は随筆。ア
34 『十訓抄』は説話集。イ『平家物語』は軍記物語。
ウ『方丈記』は随筆。エ『土佐日記』は日記。
64 エ『高瀬舟』は森鷗外_{もりおうがい}の作品。

6章 文法

- 65 六(文節)
66 エ 67 ア
70 ウ 71 オ 72 イ 73 ア
68 ウ 69 イ

87	83	82	78	74
ウ	ウ	エ	オ	キ
88	84		79	75
イ	エ		ウ	ケ
	85		80	76
	ア		ア	ク
86			81	77
イ			イ	エ

解説

87 「わからない」とウ「見つからない」は助動詞。

ア「容易でない」とイ「難しくない」は補助形容詞。

エ「授業がない」は形容詞。

88 「あなたの言う」とイ「父のつくった」は、部分の主語を表す格助詞。ア「本のページ」は連体修飾を表す格助詞。ウ「演説をするのが」は体言の代用を表す格助詞。エ「しているの」は疑問を表す終助詞。

7章 表現

89 召し上がり「お食べになり」
 90 伺い「承り／お聞きし」
 91 いただけ
 92 例 留学することです

8章 作文

93 ウ
 94 ア
 95 イ